

~Current : 時代の流れ あるいは 新しい潮流~

かれんと

2015.9.25
No.47

— かれんと編集員座談会を開催しました —



男女共同参画社会に関する情報紙「かれんと」が創刊されて今年で26年になります。創刊当時高い理想を掲げ、そして熱き想いを込めて「かれんと」をこの世に誕生させた編集員の皆さんがいま受け継がれています。

「かれんと」を通じて、何が変わり何が見えてきたのでしょうか。

今号では歴代の編集員の皆さんとの座談会を通して、人権や男女のあり方、そしてこれからの日本女性の働き方など、考えてみたいと思います。

女性が輝いている団体を紹介しす

NO.5 [鹿沼市要約筆記者連絡会]

聴覚障がい者の方々の社会生活・社会参加がスムーズに送れるよう、話の内容を文字で伝える通訳活動をしています。いつでもどこでも文字情報のある社会を目指して、日々努力しています。



男女共同参画セミナーへ派遣

H.19.4.1 ~

会員数：26名

主な活動：要約筆記者の
派遣と養成



主な内容

- P1
 - ・女性が輝く団体紹介
- P2~4
 - ・かれんと座談会
- P4
 - ・座談会つづき
 - ・ひとことメモ
 - ・お知らせ・編集後記

鹿沼市ホームページから「かれんと」バックナンバーがご覧いただけます。
ホーム>市政情報>主要な取り組み>男女共同参画>男女共同参画情報紙「かれんと」

*「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。
— 鹿沼市 —

— お集まりいただいた 歴代編集員のみなさま —



石川 さやかさん
(No.41~46)

実家と世間のギャップから男女共同参画に興味を持つ。



関口 直美さん
(No.20~24)

自分の意識改革の為。H5栃木県女性の海外研修参加。



高橋 京子さん
(No.15~28)

封建的な慣習の残る生活を体験し、男女共同参画に関心を持つ。S62栃木県婦人の海外研修参加。



塩入 佳子さん
(No.1~24)

男女の違いに興味をもった。H4栃木県女性の海外研修参加。

— 編集員になったきっかけとは —

編集での思い出。工夫したことは？

塩入 当時の編集長が、人の意見をしっかりと引き出してくださる方だったこともあり、思い切り議論が出来ました。今、しばらくぶりに読んでみると、あの時議論を尽くして作り上げたものがすごい財産になっていると思います。力を入れたのは表紙ですね、また記事については鹿沼市男女共同参画プランなどを参考に偏りが無いように計画しました。

高橋 私は、紙面を作る為に議論を重ね、推敲を重ねていったことです。なにげなく読んでしまう文章に、大変な労力があるという事を知りました。それから、取材をすることによって、日常の世界では得られない、より深い話を聞くことができたことでしょうか。工夫した所は、表紙の字数を減らして目から入るようにした事です。写真の撮影や選定にも力を入れました。

関口 取材に行つて、違う世界の方々のお話を聞くことがとても新鮮でした。議論することも、自分の意識の向上につながっていったと思います。とても充実した時間を過ごさせていただきました。工夫したのはリード文です、次のページへ読み進んでもらいたいという思いで作りました。自

分の中でこれまで意識していなかった男女共同参画という考え方が、家族や子育てに影響した事が、とてもよかったですと思います。

石川 自分の興味を持っていてることを調べて形になる事がすごく楽しかったです。また、会議の中で「男性の立場では？」と、何度も問いかけられ、常に立場を変えて考えることができるようになりました。工夫したことは1ページ目にクイズをのせてページをめくってもらえるようにしたこと、予算の枠内で2色刷りにしてもらったことです。とても見やすくなりました。



過去と現在

そして未来へのメッセージ

は、子育てする上で大切なことだと感じています。男女平等を勘違いして、男性を軽視したり、威圧してしまふ人がいますが、それではかつての男女が逆転しただけになってしまっています。家族の幸せのためにも、自分自身のためにも、お互いに尊敬し合える関係を築くことが大切だと思います。

高橋 社会は少しずつ変わっていると思います。例えば言葉ですが、男女平等社会が男女共同参画社会に変わっていくように。しかし、男性・女性がそれぞれ変わってきているかと言ったら変わっていないと思います。一番大切なのは人権。私は少しずつかれんととの編集を通じて話題にもしてきました。

今は女性が働きにくい社会だろうと思っています。法整備が遅れているように思います。男性と対等に働くには、女性は出産・子育て・家事と男性を上回る力がなかったらだきないと思います。歴史は数年で変えられるものではないですから、少しずつ少しずつ意識改革をしていくことが大切でしょうね。それが、かれんとが26年続いている理由だと思います。

石川 最近20代の女性から「結婚したら専業主婦になりたい」と言われたり、テレビでもそのような放送を見て、驚きました。今の女性は、仕事に生きがいを感じられないほど、疲れきっているのかもしれないんです。今まで「男をたてる」という言葉にかなり抵抗がありました。家庭の中で父親の存在を大切にすること

塩入 私も社会は変わったと思います。男女の特性を生かして能力を開

花させるために必要なのは、男女の立場を全く同じにする事ではないと思います。まだまだ答えは出ないけれど、男女は対立するのではなく、お互いを補い合うものだと思います。

意識の変化として感じるのは、男性が、特に団塊の世代以降は変わってきたと思います。それから予想されていたことですが、DVは増えていくという事。男女共同参画が進むと、ツラくなる男性が増えるだろうと。

それともう一つ、同性同士の恋愛や結婚に関してですが、これは男女共同参画の視点でも大事な事だと思います。男同士でも女同士でも良いという事を、こういう勉強を通して理解していく必要があるのではないかなと思っています。人間としての個性を大切にすることですね。

関口 保育園の園長をしていて感じるのは、鹿沼市でも求職中の人など待機児童が実際にいますが、それは社会進出しようとか活躍しようという事ではなく、周囲に子育てしている人が少ないために、孤独を感じて保育園に預けて仕事に出る人も多いように感じます。

そんな中でも、子育てに積極的なお父さんが増えてきており、社会はやっぱり少しずつ変わってきていると思います。先ほどの話にもあり

ましたが同性愛者、性同一性障害など、昔なら隠すようなところがあつたけれども今は堂々と恥じずに生きている人が増えてきています。人は生まれてくる環境も、家庭も、性別も自分では選べない。基本、人は平等ではないと私は感じます。

それぞれの多様性を尊重していくことで、みんなが幸せに生きていけたらいいと思っています。



女性の「力」が弱くなってきた？

編集員 やはり大切なのは人権という事ですね。男女が認め合って生きることが大切だと思います。結婚は自分と相手が育った環境がぶつかつて、譲り合ってうまくいくのですね。

高橋 農家では女性も労働力です。女性は男性と同じだけ仕事をして、家では家事に子育てもする。昔はそれで家庭が成り立っていました。あの意味、女性の底力があつたという事です。でも逆に今は女性のそういった力がなくなってきたのでは

ないでしょうか。

編集員 社会の仕組みを根こそぎ変えないと、女性が疲れてきているように思います。

関口 男の人の働き方は変わってないんですよ。離婚も増えています。女性は産む性であり、母親としてしっかり子どもを育ててほしい、父親は母親をサポートして共に子育てをしてほしいと思います。

石川 核家族化が進み、夫婦が狭い価値観の中で物事を判断してしまうため、家庭で「我慢する力」が減ってしまったように思います。

中国では三世代同居が多く、子どもは祖父母が見てくれるので、女性の就業率が高いと聞いています。

塩入 確かに中国では女性も男性も自立しています。海外研修をはじめ海外に行つてその国々の良いところをたくさん見てきました。けれど、それを日本にそっくり持ち込むことはできません。男女共同参画実現というのは日本の

の社会をよく分かった上で進めるべきですね。
編集員 今の日本に何が一番大切で必要



男女共同参画40年のあゆみ

昭和50年	国際婦人年世界会議開催(国連)
昭和54年	婦人問題企画推進本部設置(日本)
昭和56年	「女子差別撤廃条約」採択(国連)
昭和58年	婦人青少年課設置(栃木県)
昭和59年	婦人のための栃木県計画策定(県)
昭和60年	国籍法及び戸籍法の改正(日本)
昭和61年	国民年金法改正(日本)
平成3年	男女雇用均等法施行(日本)
平成4年	「婦人のための鹿沼市計画」策定(市)
平成5年	「女性課」設置、女性問題の施策を積極的に推進(市)
平成7年	「女性課」から「女性青少年課」へ(市)
平成8年	財団法人とちぎ女性センター設立(県)
平成13年	「女性のための鹿沼市計画(二期計画)」を策定(市)
平成15年	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律公布(日本)
平成16年	「かぬま男女共同参画プラン(3期計画)」を策定(市)
平成19年	男女共同参画担当部門を人権女性課に移す(市)
平成21年	男女共同参画に関する市民意識調査実施(市)
平成22年	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律公布(日本)
平成23年	「かぬま男女共同参画プラン」を宣言(市)
平成24年	「かぬま男女共同参画」プラン(2012)策定(市)

かを見極めることが重要、ということですね。

高橋 日本にもまだ封建的なところがありますね。例えば家族の中でも食事の時に座る席の場所とか。生活の中で子ども達に自然に教えてしまっている。

塩入 でも、私、この頃そういう場所って決まっていなくてもいいかなとも思うのよ。(笑)

(6月18日菊沢コミュニティセンターにて)

先輩方のお話は、いつまでも聴いていたい内容でした。最後に興味深い言葉がありました。「そういう場所って決まっていなくてもいいのかなと思うのよ」。長い月日の中で真剣に社会のあり方を見つめ活動されてこられたからこそその言葉ではないでしょうか。私たちには次世代にバトンを渡す役目があります。「大切なのは人権」「男女が対立するのではなく、補い合って」「多様性の尊重」。言葉のひとつひとつに身の引き締まる思いがいたしました。貴重なお話をありがとうございました。



*** 座談会に参加してー現編集員の想いー ***

○社会は少しずつ変化している。急激にはありませんが、私たちの意識も変えられるものであり、この26年間で着実に変化しているということに希望を見出しました。そのためには言い続けること、活動し続けていくということに意義があるのだと感じました。これからも「かれんと」の活動が続いていくといいなと思います。(福田万里子)

○仕事をしながら、編集に携わって3年になります。その間に変わったことは、男女の問題も、障害の問題も、人権の問題だと考えるようになったことです。そして人権を尊重し、お互いを認めあいながら、それぞれの不足しているところを補い、共に喜び、共に考えていくことが大切だと思うようになりました。(高橋和子)

○平成4年～26年(創刊号～46号)まで読ませて頂いてから座談会に臨みました。平成4年鹿沼市に女性課が誕生し「かれんと」も第1号が発行されて、女性からのニーズに応じてネットワーク作りへと動きだした頃、塩入・関口・高橋さん達が海外研修へ参加し、女性学を学び、女性の目線で女性問題への執筆に取り組んでいたことに感心しました。私は「かれんと」の中に活動への意欲を学んだ次第です。(青山房子)



平成27年11月12日(木)～11月25日(水)は
女性に対する暴力をなくす運動週間です

※身体への暴力のほかにも、人格を否定するような暴言・精神的ないやがらせ・性的な強要なども暴力です。

編集後記



絵手紙を初めて頂いたのは、八年前です。はがきのサイズに込められた、感動の言葉や、穏やかで素朴な絵から、温かく優しい気持ちと、元氣と勇氣を沢山もらいました。自分が書くこうとすると、絵に添える言葉にも思い入れがあつて悩みます。伝えようとする言葉を、喜んで受け取ってもらえ、喜ぶのが私の糧となりました。これからはもう一つと描いて行きたいと頑張っています。



市民編集員
福田万里子・高橋和子・青山房子



ひとくちメモ



エルジーピーティー

性の多様性を表す言葉「LGBT」

レズビアン(女性同性愛者)・ゲイ(男性同性愛者)・バイセクシャル(両性愛者)・トランスジェンダー(体と心の性が一致しない人々)の頭文字を並べて、セクシャルマイノリティ(性的少数者)を表しています。しかし、性の多様性が認められてきた今日、この4つですべてを表すことは出来ないとされています。